

『身近な水環境全国一斉調査』世界環境デー・2022・6月5日報告

2012年から地域の山岳会の活動を継承し、神奈川県西部地区20地点の河川にて調査を行っていた。コロナ禍で一旦途絶えていたが、今年度は、相模川水系の中津川、荻野川、小鮎川、玉川から、候補地から5か所に選定し調査を行った。

地元厚木の山岳会と、神奈川岳連内のボランティア募集チームで、この活動の再開ができた。里地や、河川上流を歩き、さわやかな季節のウォーキングを楽しんだ。

メンバー：青木(茅ヶ崎)、田島(厚木)、磯野(川崎)、木下、芹沢、伊藤篤子、伊藤靖雄、日置(藤沢)、三好(個人会員)

採水箇所：日向橋、中川橋、裡橋、荻野橋、千頭橋、

パックテスト：玉川公民館

行動：本厚木駅で、車でピックアップ、庫裡橋で採水し、方法を共有した。その後、皆で、他箇所を、採水した。午後、玉川公民館で、パックテストをした。玉川公民館、会議室手配を、厚木市協会、森氏に手配いただいた。採水地について、清川村、中川橋は、新規採水地。当日の天候も良く、地元田島さんが、コースの船頭していただき、午前中の活動がスムーズに午後の、パックテストは、近隣の公民館を手配いただいた。記録の記入を三好さんが、進んでしてくれた。バケツ、水温計等をもって協力し合い活動できた。身近な水環境調査、みずとみどり研究所への報告が、伊藤篤子、初めてであった。採水地での特記事項など、たりないように思った。来年は、調査報告書を書いていねいに出したい。令和5年指針：採水地の継続的なデータが、望ましいとのこと。今年度の採水の方法を山岳会や、皆で共有し採水所が、増えるとありがたい。JMSCA自然保護委員会では、新たに、沢水の調査を、全国展開の方針である。一か所、どこか、丹沢山系で決めたい。 報告・伊藤篤子 2023・2/17

